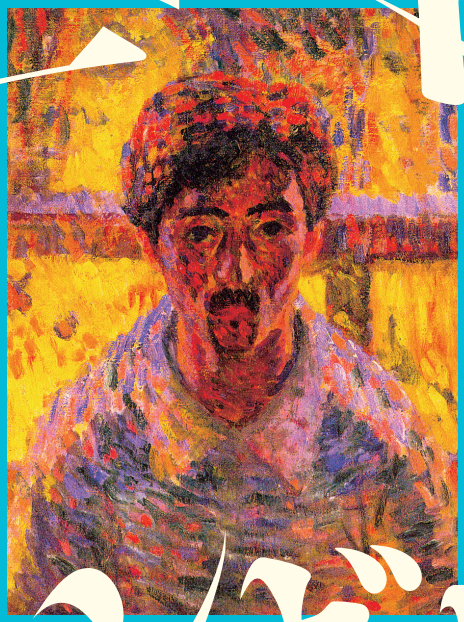
大正⇄令和 アヴァンギャルド

Taisho⇄Reiwa Avantgarde

Artists Bridging a Century

萬鐵五郎、棟方志功から現代アートまで



1



2

3

1▶萬鐵五郎 YOROZU Tetsugoro《点描風の自画像》1912年頃、岩手県立美術館蔵
2▶雨宮庸介 AMEMIYA Yosuke《Apple》2022年、弘前れんが倉庫美術館蔵 Photo by Ryo Narita
3▶市原えつこ+ISIDイノラボ ICHIHARA Etsuko + ISID Open Innovation Lab《都市のナマハゲ》2017年

主催 | 弘前れんが倉庫美術館
協賛 | スターツコーポレーション株式会社、株式会社大林組、株式会社NTTファシリティーズ
後援 | 東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、エフエム青森、FMアップルウェーブ、弘前市教育委員会

休館日 | 火曜日（ただし2月23日、4月13日、20日、27日、5月4日は開館）、12月26日[土]―1月1日[金]、2月24日[水]、5月6日[木]
開館時間（入場は閉館の30分前まで） | 9:30-17:00（12月～2月28日まで）、9:00-17:00（3月1日以降）
Closed | Tuesdays (except on Feb. 23, Apr. 13, 20, 27, May 4), Dec. 26 - Jan. 1, Feb. 24, May 6
Opening hours (Last admission 30 minutes before closing) | Dec. to Feb.; 9:30-17:00 / Mar. to May; 9:00-17:00

2026.12.4(fri.)→2027.5.16(sun.)

弘前れんが倉庫美術館
HIROSAKI MUSEUM OF CONTEMPORARY ART

いぱだだ!

大正と令和の異端児たち

「アヴァンギャルド(前衛)」とは何でしょう?
いつの時代のどんな表現のことでしょうか?
青森や北東北には、どんな作家たちがいたのでしょうか?
これは、「アヴァンギャルド」という言葉が日本で使われるようになった大正時代と、現代のアーティストたちの表現を並べてみる展覧会です。
津軽地方には、「いぱだだ」という言葉があります。人やものの様子が「一風変わっている」という意味です。大正時代の青森では、たとえば洋画家になろうと決意すること自体が、まさに「いぱだだ」な試みでした。
本展には、大正時代の青森を中心とする北東北の作家たちの作品と、令和に活動する現代の作家の作品が登場します。大正と令和の作家たちはともに、目まぐるしく変化する社会の中で実践できることを模索し、活動を続けてきました。
私たちにとっての「前衛」とは今どこにあるのか、二つの時代を行き来しながら、一緒に考えてみませんか。



1



2

1▶今純三 KON Junzo《バラライカ》1919年
弘前市立博物館蔵、展示期間｜12/4㊍～3/1㊊
Exhibition Period: Dec.4 - Mar.1

2▶おおだいらまこ OODAIRA Mako《食卓》2026年

3▶小森はるか+瀬尾夏美 KOMORI Haruka + SEO Natsumi
《二重のまち／四つの旅のうた》2020年
©KOMORI Haruka + SEO Natsumi

4▶泉田剛 IZUMITA Go《解体と記憶》2025年
Photo by Hayate Yagi

▶出品作家 / Artists

【大正時代の作家】阿部合成、大川亮、池田淑人、今純三、今和次郎、小西正太郎、下澤木鉢郎、鷹山宇一、橋本花、羽場金司、福田剛三郎、松山忠三、棟方志功、萬鐵五郎

【令和の作家】泉田剛、市原えつこ、おおだいらまこ、小森はるか+瀬尾夏美、雨宮庸介、笹本晃、畠山直哉

【from Taisho(1912-1926)】 ABE Gosei, OKAWA Ryo, IKEDA Yoshito, KON Junzo, KON Wajiro, KONISHI Shotaro, SHIMOZAWA Kihachiro, TAKAYAMA Uichi, HASHIMOTO Hana, HABA Kinji, FUKUDA Gozaburo, MATSUYAMA Chuzo, MUNAKATA Shiko, YOROZU Tetsugoro
【from Reiwa(2019-present)】 IZUMITA Go, ICHIHARA Etsuko, OODAIRA Mako, KOMORI Haruka + SEO Natsumi, AMEMIYA Yosuke, SASAMOTO Aki, HATAKEYAMA Naoya



3



4

展覧会について

About Exhibition

What is the "avant-garde"? What era and what kind of artistic expression are we talking about? And what kinds of artists were working in Aomori and the northern Tohoku region? This exhibition brings together artistic approaches from the Taisho era (1912–1926), when the word **"avant-garde"** came into use in Japan, and those of contemporary artists working today. In the Tsugaru region, the word **"ipadada"** describes a person or thing that is "a little out of the ordinary." In Aomori during the Taisho era, for example, simply deciding to become a Western-style oil painter was itself an "ipadada" endeavor.
The exhibition features works by artists active in northern Tohoku, particularly in Aomori, during the Taisho era, alongside works by contemporary artists active in the Reiwa era (2019–present). Both groups of artists have sought ways to put their ideas into practice as they have continued working in rapidly changing societies. Where is the **"avant-garde"** for us today? As we move back and forth between these two eras, let us think about this together.

▶観覧料[税込]

一般 1,600円、大学生・専門学校生 1,000円
弘前市民：一般 1,000円、大学・専門学校生 500円
無料：高校生以下の方、弘前市内の留学生の方、満65歳以上の弘前市民の方、ひろさき多子家族応援パスポートをご持参の方、障がいのある方と付添の方1名

Admission [tax included]
Adult 1,600 yen, University & College Student 1,000 yen
Hirosaki resident: Adult 1,000 yen, University & College Student 500 yen (not valid in conjunction with any other offers or promotions)
*Free of charge for high school student and under; international student in Hirosaki city; citizen of Hirosaki over 65, the disabled and one accompanying attendant

▶関連プログラム

○開幕セレモニー
日時｜12/4㊍ 15:15-

○アーティスト・リレートーク
日時｜12/5㊏ 13:00-14:00
泉田剛、おおだいらまこ(要観覧券)

○学芸員による解説ツアー
日時｜12/12、1/9、2/13、3/13、4/10、5/8
いずれも㊏ 14:00-14:30(要観覧券)

○ナイトツアー「テクニカル・ディレクターと見る展覧会の裏側」
日時｜1/16㊏ 17:30-18:30(有料)

○おおだいらまこ トーク+ワークショップ
日時｜3/27㊏ 13:30-16:30(要観覧券)

○レクチャー「大正時代の青森の画家たち(仮)」
日時｜4/24㊏ 13:00-14:30(要観覧券)
對馬恵美子氏(青森県立郷土館ゲストキュレーター)

○泉田剛 トーク+街歩きワークショップ
日時｜5/1㊏ 13:30-16:30(要観覧券)

○小森はるか+瀬尾夏美 作品上映会&アーティストトーク
『波のした、土のうえ』(2014年・68分)
3/14㊐ 上映｜①10:30- ②15:00-
アーティストトーク｜13:00-14:00
(有料、トークは要観覧券または上映券)
5/8㊏ 上映｜①10:30- ②15:00-
(有料、上映会のみ)

▶その他のプログラム

○建築ガイドツアー
日時｜12/19、1/16、2/20、3/20、4/17、5/15
いずれも㊏ 11:00-11:30

○美術館のお正月2027
日時｜1/2㊏、3㊐

○学芸員によるH-MOCAレクチャー「永沢碧衣《山懐を満たす》」
日時｜1/23㊏ 14:00-15:00

○館長によるH-MOCAレクチャー特別編「風景を描くとは?—蜷川実花と永沢碧衣を中心に」
日時｜3/3㊋ 17:30-18:30(有料)

○H-MOCAライブ
音楽ライブなどの開催を予定しています。

イベントの詳細や申込方法はこちら▶

同時開催｜コレクション展 2026-2027
出品作家｜杉戸洋、永沢碧衣、奈良美智、蜷川実花、服部一成
※観覧料は「大正⇄令和アヴァンギャルド展」と共通

▶アクセス

当館に駐車場はございません。お車の方は近隣の有料駐車場をご利用ください。観覧料割引駐車場(2名まで100円引き)◎上土手町駐車場◎アウトエア弘前◎したどてスカイパーク◎三井のリパーク弘前桶屋町◎三井のリパーク弘前桶屋町第2◎タイムズ中央弘前駅前

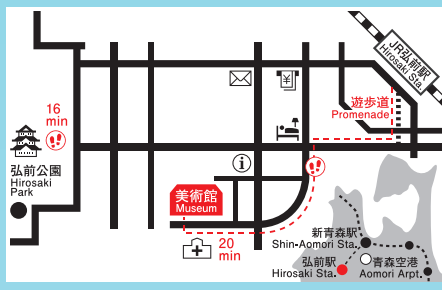
JR「弘前」駅から徒歩約20分 / 土手町循環バスで「中土手町」下車、徒歩約4分 / 車で約7分

【新幹線】JR東北新幹線「新青森」駅下車(JR奥羽本線乗換「弘前」駅へ)

【飛行機】青森空港利用(羽田、伊丹、新千歳、小牧ほか)、空港バスでJR「弘前」駅まで約50分

アクセス

Access



▶お問合わせ

弘前れんが倉庫美術館
〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1
Tel.0172-32-8950 www.hirosaki-moca.jp
Hirosaki Museum of Contemporary Art
2-1 Yoshino-cho, Hirosaki City, Aomori, 036-8188 Japan